市民公開講座

がん撲滅キャンペーン
～肺がん・乳がん 治療の進歩～

松澤 助教

長島 准教授

朴 准教授

去る 2013年9 月 28 日に東棟 7 階の講堂にて、「がん撲滅キャンペーン」と題して市民公開講座を開催いたしました。毎年 9 月のがん制圧月間に行われるこのキャンペーンは 2009 年に始まり今回で 5 回目となります。今回のテーマは「肺がん・乳がんの治療の進歩」で、外科の岡住教授の司会ですすめられました。当日は天候に恵まれ、多くの市民の方にお集まりいただき、がんに対する関心の深さを感じました。

現在、日本人は一生のうちに、2 人に 1 人が何らかのがんにかかるといわれており、近年胃がんの罹患率は減少していますが、肺がん、大腸がん、前立腺がん、乳がんは増加傾向にあります。

まず、肺がん治療に関して、内科の松澤助教と外科の長島准教授が担当しました。肺がんは、手術、薬物治療、放射線治療の 3 つが基本で、いくつかの治療法を組み合わせて行うことが一般的です。また、がんに対する治療に加えて、がんに伴う体と心のケアを行う緩和医療も治療の早期から行うようになってきています。肺がんの切除は、最近は胸腔鏡が多くなっており、当院でも積極的に胸腔鏡下手術を肺がん治療にも導入しています。術後の痛みが少なく、入院期間も短く、患者さんには優しい手術方法です。薬物治療は、抗がん剤や分子標的薬などを使って、がん細胞の増殖を抑える治療を行っています。抗がん剤は内服、点滴・注射によって投与を行い、治療効果と副作用をみながら継続します。入院で治療を行うこともありますが、最近は外来で治療を行うことも多くなってきました。また、放射線照射によってがん細胞の増殖を抑えることができますが、がんの種類によって放射線治療の効果が大きく異なります。来年度には、佐倉病院でも放射線治療の開始が決まっております。

次に乳がん治療に関して、外科の朴准教授が担当しました。わが国の女性がんにおいて乳がんは罹患率 1 位、死亡率 5 位であり、年齢調整罹患率は人口 10 万対 65.6 人、粗死亡率は 10 万対 19.2 人となっています。とくに罹患率は年率 5%ずつ上昇、過去 30 年で 5 倍に増加しています。よって乳がんは common disease となったと話されていました。乳がんの治療には局所療法と全身療法があり、局所療法には外科療法と放射線療法、全身療法にはホルモン療法、化学療法、分子標的療法があり、これらを組み合わせて行う集学的治療が一般的に行われています。最近では乳がんの治療効果予測因子であるホルモンレセプターやHER2状況、Ki67染色陽性率に応じて intrinsic subtypeを確定してから全身療法の方針を決めるのが trend とのことです。当院では intrinsic subtype に基づく乳がん全身療法を2008年から導入し、良好な成績を収めています。

がんは、生活習慣や食生活の見直し、運動不足の解消などによって、「なりにくくする」ことはできますが、「ならないようにする」ことはできないので、がんのことを正しく理解し、早期発見と適切な治療を受けることを心がけることが最も大切であることを強調されていました。

会場の様子

■ 市民公開講座スケジュール ■ 〈2013年度の市民公開講座　予定〉

開催予定日	講演予定テーマ	担　当
10／12(土)	当代屈指の遺伝専門医が解き明かす「これが遺伝と出生前診断だ」	産婦人科
11／30(土)	「ものわすれ」（認知症）と共に歩む ” 診断と治療 ”	神経内科、他
12／14(土)	「うつ病のリハビリテーション」 ～当院における職場復帰プログラムと認知行動療法の実践～	メンタルヘルスクリニック 他
1／25(土)	「鼻・副鼻腔の疾患」	耳鼻咽喉科
2／22(土)	「狭心症・心筋梗塞」	循環器センター
3／29(土)	「未定」	皮膚科

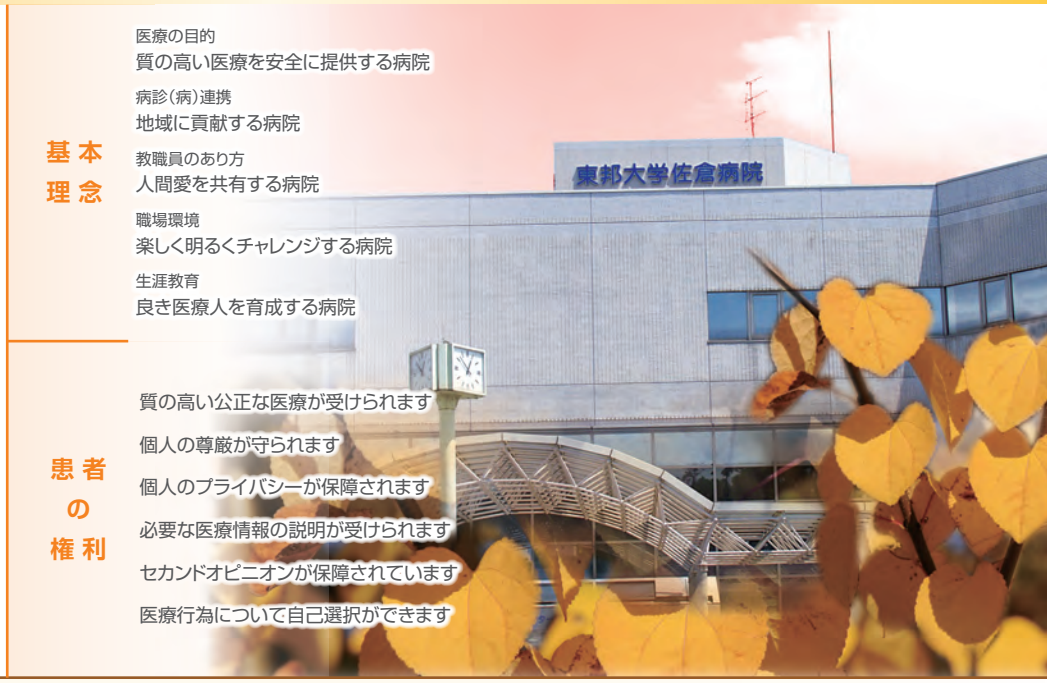
入場無料
申込不要
200席

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。いずれの講座も 14 時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

東邦大学
佐倉だより

Vol. 22　2013,10,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL　043-462-8811㈹
FAX　043-462-8820㈹
URL　http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp



基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診（病）連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

スペシャリスト看護師の活用を！

看護担当副院長（認定看護管理者）
寺口　恵子

Topics News
スペシャリスト看護師の活用を！
看護担当副院長（認定看護管理者）／寺口 恵子

新体制の紹介
■臨床検査部・研究開発部／武城 英明

医療連携だより―教育連携について―
■東邦大学の研修医指導体制
教育担当副院長／岡住 慎一

市民公開講座
■がん撲滅キャンペーン
～肺がん・乳がん 治療の進歩～

佐倉病院看護部は「生命尊重と人間愛を基本とし、やすらぎと心のかようあたたかい看護を提供します」を看護理念とし、看護の専門性（看護力）を発揮し、医師・他職種と連携して日々看護を提供しています。

当院看護部の特徴として、病棟・外来の一元化（ユニット制）による継続看護、看護相談室の設置による地域の医療機関・訪問看護ステーション・介護サービス事業所などとの連携および看護師による退院支援の実施、BSC（バランススコアカード）の導入による業績評価等があります。2013年度看護部は、1.看護の質の向上・推進を図ります。2. 経営意識を持ち、病院経営に積極的に参画・協働します。3. 救急体制の強化・地域連携の推進により、地域に貢献します。4. 管理・教育体制の充実と強化を図ります。を目標とし、「安全なケアの提供」「顧客（患者・職員）満足度の向上」「病床利用率の向上」「入院基本料７：１保持」の４つの基本戦略を立て、目標達成に向け取り組んでいます。

これまで、ユニット制による継続看護を推進しつつ、外来看護の充実に努めてきました。2012 年度より外来患者への告知場面に認定看護師が同席し、必要時カウンセリングを行なっておりますが、今年度 7 月からは、がん性疼痛認定看護師・がん化学療法認定看護師・乳がん看護認定看護師による『がん相談支援看護外来』を設置しました。今後は、当院でも放射線療法の導入を経て、がん診療連携拠点病院の指定を目指す予定であるため、がん相談支援センターの基盤となるよう「がん相談支援看護外来」を軌道に乗せる活動に取り組んでいきます。

また、地域連携においては、地域看護職の看護力の向上、看護職間連携の推進は必須と考え、卒後教育公開研修を企画し、ホームページで公募しております。残念ながら限られた医療機関の看護職のご参加に留まっている為、今後、地域医療機関・福祉施設・訪問看護ステーション・介護サービス事業所等の看護職が参加しやすい公開研修やスペシャリストによる出張研修を検討していきたいと考えております。当院には、感染管理認定看護師・皮膚・排泄ケア認定看護師・糖尿病看護認定看護師・新生児重症ケア認定看護師・不妊症看護認定看護師等多くのスペシャリストが活動しております。是非、専門知識を持ったスペシャリスト看護師を活用して頂きたいと思います。

新任のご挨拶と臨床検査部・研究開発部のご紹介

部長
武 城 英 明

2013年4月より臨床検査部部長に就任しました武城英明（ぶじょうひであき）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。臨床検査部は、佐倉病院を受診された患者さんの診療で必要となる血液や尿の生化学検査などを、一括して検査する中央部門です。検査結果を確実に迅速にお届けするようスタッフ一同全力で取り組んで参ります。

佐倉病院臨床検査部は、臨床検査診断センター 5 部門の一つです。佐倉病院のそれぞれの診療科の外来・入院診療の支えとなるべく、センターの病院病理部、生理機能検査部、輸血部、研究開発部（兼任）と密接に連携を保ち業務を行っています。臨床検査は大きく分けると、患者さんの身体を直接調べる生理機能検査（心電図や超音波検査など）と、血液をはじめとする各種体液や、尿、便、喀痰、臓器の一部を材料（検体）として行う検体検査があります。佐倉病院の臨床検査部では検体検査を担当し、その業務はさらに、生化学、血液学、免疫血清、一般、細菌の 5 分野に分かれます。院内検査室のそれぞれの分野で項目を正確に分析し、結果を迅速に診療現場に報告することが大きな役割です。また、院内検査のみならず、病気に必要な特殊な検査や治療に大切な最先端の検査などの外注検査も扱い、すべての解析結果を厳密に、必要に応じていつでもお届けできるように管理しています。それぞれの分野の主な検査を紹介します。

【生化学分野】血液中の蛋白質、糖質、脂質、電解質、酵素などを測定します。あらゆる分野で新たに樹立された病気の考え方やガイドラインに沿って最新の検査技術を導入し対応しています。

臨床検査部／研究開発部スタッフ

【血液学分野】白血球、赤血球、血小板など血液中の血球数を算定します。血色素や凝固、線溶系なども扱い、迅速な結果が必要となる検査が多く、測定検体の状態をつねに確認しながら報告します。

【免疫血清分野】様々なウィルスの抗原や抗体価、腫瘍マーカー、ホルモンなどを測定します。感染症の流行を共有しいち早く対応する準備を行うなど最新の検査開発の情報を集めています。

【一般検査】尿検査と髄液検査、体腔液検査などを行います。採取のために患者さんが痛みを伴うような検体を扱うことも多く、慎重に正確に結果を報告することを心がけています。

【細菌検査】一般細菌検査と検出された細菌の抗生物質に対する薬剤感受性検査、結核菌などの抗酸菌検査などを行います。院内と全国の情報を組み合わせ迅速な治療に結びつくようにしています。

これらの検査分野での分析と、その結果を報告する業務に 16 名の臨床検査技師が従事し、24 時間 365 日対応するために通常勤務に加えて日当直体制で運営しています。実施している検査項目数は 100 項目を超え、一日に測定される検体数は約 3,000 件です。緊急検査項目は、検体が検査室に到着後 40 分以内に結果を診療現場へお届けすることになります。このような多数の検体の結果を迅速に報告するために、また、予期せぬ機器異常により報告が遅延することがないように、各分野に複数台の検査分析機を設置しています。それぞれの機器には無停電装置などを装備し検査室全体の危機管理にも対応しています。

このような多岐にわたる検査項目の精度管理を実施するために、検査室で毎日確認するとともに定期的に外部精度管理調査などに参加し、安全で安心な医療を実践するための検査を提供しています。また、臨床検査室は検査業務に加えて、患者さんを診療する病院スタッフのメンバーとして院内チーム医療活動に加わっています。たとえば感染対策チームでは病院全体が感染状況を把握して安全衛生対策を行うために、最新の検査結果に基づき解析された統計データをまとめて専門的見地から適切な対策を講じることに貢献しています。

臨床検査部は毎年数名の新人が加わります。多くは出身や育ちが佐倉やその近くであったり、また学生時代を佐倉や千葉で学んできた若者です。日々検査の質の向上を目指し、そのためには検査を行う技師の個々の技能を高めることを意識しています。一方、当院で深い経験を有する熟練した職員、高い専門技術と広い知識を習得することで認定資格をもつ臨床検査技師（緊急臨床検査士 6 名、二級臨床検査士 6 名、認定一般検査技師 1 名）が勤務しています。臨床検査部スタッフは、毎年あらたな力を与えてくれる若い世代一人一人を大事に育てることを共通の楽しみにしながら、全員で力を合わせて検査業務を行っています。

科学の進歩に伴って新しい検査項目や測定法が続々と開

発されています。これにともなって生まれる情報は膨大です。そのような情報の中から信頼できる検査を遅れることなく、わかりやすく診療現場そして患者さんにお届けするのが臨床検査の課題の一つです。科学が絶え間なく進展することと細かな医療を実践することとの架け橋となるのが検査医学であり、その業務を確実に行うことは現代の医療に欠くことのできない位置づけです。また、世界の科学が病院へ入るのみでなく病院で行われている最新の医療や研究を地域や世界に発信する場も担います。このようなことから今回、研究開発部も兼任し、病院のそれぞれの専門診療で行われている研究を推進する基盤を整え、若手の学位研究を支援します。その成果や実績もお知らせします。

私ども臨床検査部／研究開発部一同は高度化、細分化される医学の現状に迅速に対応し、より良質な検査を患者さんに提供するために、医師、看護師、他コメディカルスタッフと連携をとり高機能な検査室を目指します。検体検査についてご質問やご相談などございましたらどうぞお気軽にお問い合わせください。

医療連携だより　―教育連携について―

東邦大学の研修医指導体制
教育担当副院長　岡 住 慎 一

東邦大学の教育理念は「よき臨床医を育てる」ことであります。現代におけるよき臨床医には、①高度な医療水準を求め、②患者さんと地域に信頼され期待に応え、③安全性を常に担保することが要求されます。佐倉病院における初期研修では、厚生労働省の定める達成項目を基本に、「プライマリーケアの修練」、「疾患への病理学的アプローチ」、「がん診療の習得」、「地域医療連携」、「安全管理」を必須要件としてカリキュラムを組み、指導体制をすすめています。研修医は、医師免許取得後、約 1 か月の集中オリエンテーションを受け、各診療科に配属され、2 年間の研修カリキュラムにより目標経験項目を達成します。併行して、救急センター当直を週一回ずつ継続し、自身で約 20 例平均、年間で約 1,000 件の初期診療の前線に指導医とともに携わり、翌朝のカンファレンスにてプレゼンテーションを行っています。これによるプライマリーケア修練は、診察、検査、診断、各科連携、地域連携、治療にわたる諸課題に常時触れることにより、非常に効率の高い研修となっております。国民の 2 人に 1 人が罹患する「がん」診療についても、月例のオンコロジーカンファレンスを通して常時最新の知見を update し、予防、指示、緩和、治療と幅広い診療力の習得に努めています。また、月例の医療安全管理研修会、研修医ミーティングを通じて、各部署ならびに研修医相互の経験を共有し、安全管理能力の向上に努めています。年度末には、1 年目 2 年目合同でワークショップを行い、前期研修の種々の問題点を抽出し、相互に discussion してその解決方針の発表討論を行っています。さらに、昨年度から、研修医、指導医、地域医師、行政官、東邦大学卒後教育研修センター教員のそれぞれが一同に会した発表の場を設けました。初めに「地域医療の現場からの研修医指導」について地域医療機関からの講演、次いで指導医講習会の課題発表、研修医課題発表を行い、さらに「新医師臨床研修制度」について厚生労働省 村岡専門官の講演、最後に卒後教育研修センターの講演にて、相互の現状および課題の認識を深めました。今年度も 2014 年 2 月 15 日に予定しており後日ご案内いたしますので、地域の先生方のご出席およびご指導をいただければ幸いです。

指導医講習会の様子

ワークショップの様子

地域の先生方には日頃から、学生教育・実習、研修医の地域研修などでお世話になっており、厚く感謝しております。東邦大学佐倉病院では、地域の医療連携の中において教育連携に協力頂きながらさらに充実させ、将来の医療連携につなげ、より良い強固な関係を築いていきたいと考えています。これからも、常に最新の医療を安全に行いながら、地域に信頼され期待に応えられる、「よき臨床医」の教育に努めて参ります。今後とも地域の先生方のご指導、ご協力をひきつづきお願いしたく、何卒よろしくお願い申し上げます。